

編集後記

本号では、ウメオ大学のカイサ・ボルユ氏から、スウェーデンのスロイド教科の教員養成の歴史と現状に関する論考を寄せて頂いた。氏は1880年代から、つまりオットー・サロモンのスロイド教員養成講習会からその歴史をはじめている。スウェーデンにおいて、オットー・サロモンの教育実践と理論の再評価が一般化したのは、最近のことであるように思われる。

昨年夏に研究室のメンバー及び岐阜県の現場の教師たちとともにスウェーデンとアイスランドの教育現場を訪問した。アイスランドの工作教科の実践から発展させられたといわれるイノベーション教育について、初等教育の現場でその実践に取り組んできたスバンボリィ氏に論考をよせてもらった。氏は現在教師をしながら、アイスランド教育大学の大学院博士課程においてイノベーション教育の研究を行っている。氏の論考は昨年アイスランド訪問の一つの成果ともいえよう。

フィンランドとフランスに関する手工科教育の歴史に関する論文の翻訳（伊藤、浜島による）は、昨年度の大学院のゼミ（「技術教育学研究Ⅰ、Ⅱ」）での共同討議をふまえて翻訳されたものである。

最後に、中住健二郎氏は、社会人聴講生として夜間に開講している大学院のゼミ（「技術教育学Ⅰ、Ⅱ」）に2000年度より7年間出席された、工業高校の元教師である。高齢のため、今期からは出席されなくなったが、最後に攻玉社の技術教育に関する論考を寄せて頂いた。長年にわたる筆者のゼミへの出席に対して、記して感謝申し上げたい。

技術教育学研究室

横山悦生